



ふるさとの**自然** ————— (54)

家族で助け合って暮らす アシナガバチ

○巣を守る母蜂

人間を刺すこともあるアシナガバチは嫌われ者の昆虫ですが、毛虫などを食べてくれる益虫でもあります。

春、冬を越した母蜂が一匹で巣作りを始めます。部屋ができると卵を産み、かえった幼虫の世話をします。ここで生まれた子どもは全て雌。娘蜂は働き蜂となって母蜂を助け、巣を大きくして家族を増やします。

幼虫の餌は毛虫や花の蜜です。毛虫を見つけると肉団子にして巣に運び、口移しで幼虫に食べさせます。暑い日には水を運んで巣に塗り付け、羽ばたいて風を送って冷やします。

○子孫を残すための本能

夏の終わりごろになると雄蜂と、働き蜂にならない雌蜂が生まれます。しかし、雄蜂は働き蜂に世話をしてもらうばかりで全く働きません。このころ母蜂は死んでしまいます。やがて、雄蜂と働き蜂にならない雌蜂は交尾をします。その後雄蜂と働き蜂は全て死んでしまいます。そして交尾した雌蜂だけが冬を越し、翌年母蜂になってまた新しい生活が始まります。

(旭市文化財審議会委員 齊藤敏一)